

取組・活動名		オリンピック射撃競技選手による特別授業 ～朝霞市で行われる射撃競技のオリンピックの経験から学ぶ～				
校種・学年		小学校・第5学年			教科等	総合的な学習の時間
カテゴリー	歴史・意義	アスリート	多様性	日本人	時間・学期等	1時間・2学期(12月)
	国際感覚	ボランティア	伝統・文化	(その他)	準備等	パソコン・プロジェクター・マイク
プログラムのねらい						
<p>○射撃競技選手の講話を通して、オリンピック及びパラリンピックに関心をもたせる。</p> <p>○射撃競技との出会いやこれまでの経験談等を聞くことで、アスリートやオリンピック競技への理解を図る。</p>						
児童・生徒の実態						
<p>朝霞市立朝霞第八小学校は東武東上線朝霞駅から徒歩10分以内の距離にあり、近年、戸建てやマンションが増えたため、現在1000人を超える大規模校となっている。今回の対象児童である5年生は昨年度が177名、今年度は154名在籍している。</p> <p>また、本校は2020年に開催予定の東京オリンピック射撃競技会場となる「陸上自衛隊朝霞駐屯地」及びオリンピック出場選手たちが練習している「自衛隊体育学校」のすぐ近くにあり、保護者が自衛隊員という児童も多い。</p> <p>なお、平成30年12月に講演いただいたピストル射撃の森 栄太選手の親族も通っている。</p>						
プログラムと既存の学習との関わり						
<p>プロフィールからの情報に加え、選手から直接、射撃競技についての話や生き立ち、射撃競技との出会い、これまでにしてきた経験・体験についても講話いただいたことで、選手と競技への理解が深まった。特に、実際の的を表示し、「50m先の的を望遠レンズ無しで撃つ」ライフル競技や「25m先の的を決められた秒数以内に60発撃ち込まなければならない」ピストル競技の詳細を児童に説明していただけたことで、射撃競技への関心が高まった。また、社会科において、外国との貿易を学習済みということもあり、世界選手権が行われた国名が挙げられる度に、頷いている児童も多く見られた。</p>						
指導計画・評価計画						
【指導計画】						
○射撃競技についての説明及び射撃選手の生き立ちや射撃競技との出会い、これまでにしてきた経験・体験についての講話を聞く。						
【評価計画】						
○当日の質問内容やお礼の手紙の内容から、アスリートやオリンピック競技への関心や理解を深めることができたかを知る。						

本時の学習指導

<平成29年度の取り組み>

ライフル射撃競技(自衛隊体育学校所属)の「清水 綾乃」選手が来校し特別授業を行った。(12月13日(水)の5校時)

1 本時の目標

ライフル射撃競技についての説明及び清水選手の生い立ちや射撃競技との出会い、これまでの経験・体験についての講話を聞くことでアスリートやオリンピック競技への関心や理解を深める。

2 展開

- (1) ライフル射撃競技の説明を聞き、射撃競技に関心をもつ。
 - (ア) 清水選手から、射撃競技との出会いや世界大会出場の話聞くことを通して、射撃競技に対する姿勢等について考える。
 - (イ) 実際の競技の様子をVTRで観ると同時に、競技で使用する服や的に児童が直接触れることにより、競技の難しさや、選手の思いを感じ取る。
- (2) 清水選手の講話に対する質疑応答を行う。
- (3) 児童による感想発表とお礼の言葉を述べる。

3 指導上の留意点

実際の銃が持ち込めないので、関連する多くの用具等から、競技を身近に感じさせる。



<平成30年度の取り組み>

ピストル射撃競技(自衛隊体育学校所属)の「森 栄太」選手が来校し、特別授業を行った。(12月13日(木)の5校時)

1 本時の目標

ピストル射撃競技についての説明及び森選手の生い立ちや射撃競技との出会い、これまでにしてきた経験・体験についての講話を聞くことでアスリートやオリンピック競技への関心や理解を深める。

2 展開

- (1) ピストル射撃競技の説明を聞き、射撃競技に関心をもつ。
 - (ア) 森選手から、射撃競技との出会いやリオデジャネイロオリンピック、各世界大会出場の話聞くことを通して、射撃競技に対する姿勢等を考える。
 - (イ) 実際の競技の様子をVTRで観ると同時に、競技で使用するピストルのグリップ部分に児童が直接触れることにより、競技の難しさや、選手の思いを感じ取る。
- (2) 森選手の講話に対する質疑応答を行う。
- (3) 児童による感想発表とお礼の言葉を述べる。
- (4) 児童は退室する前に、森選手が持参した資料物に触れる。

